

巻頭言



会長就任にあたって

猪瀬 博†



私はこのたび、本学会会員多数の御信任をいただき、はからずも会長の重責を担うこととなりました。歴代の会長の方々が斯界の大先達であられるのに比べますと、若輩の身でまことに心もとない気がいたしますが、幸い両副会長をはじめ理事役員の皆様はすぐれて練達な方々ばかりでありますし、事務局の方々も意欲に燃えておられますので、これらの方々の御協力と、会員各位の御声援を得て、この重大な任務をとどこおりなく達成することができればと、願っている次第であります。

本学会が1960年に設立されました当時は、会員数は1,000にも満たなかったのでありますが、今日では15,000を超える急速な成長振りであります。特に昨年は創立20周年に当り、盛大な記念祝典を挙行するとともに、創立当時からの念願でありました、IFIP Congress 80を成功裡に開催するなど、名実ともに大学会としての風格を備えるに至りましたことは、まことに御同慶に堪えません。この20周年を一つの節目として、本学会はいわば成人の時代に入ったわけでありまして、本年はその第一歩ともいべき大切な年であります。諸先輩が築かれた栄光ある基盤の上に立ち、新たな飛躍を遂げるべく、果敢な活動を展開して行かねばならないと考える次第であります。

さて本学会の20年の歴史を顧みますと、それは情報科学・技術の目覚ましい発展の時代でありました。この間情報処理産業は我が国の基幹産業の一つに数えられる域にまで成長し、情報技術は我々の社会活動のあらゆる側面に滲透して、最大の支柱となるに至っております。特に石油危機以来、省資源・脱公害・高付加価値産業への産業構造の転換と、活力ある福祉社会をめざす社会資本の充実が叫ばれるようになりましたが、その成否は情報科学・技術の発展とその全面的援用にかかっていることが広く認識されております。本学会の今後の活動は、我が国の明るい未来を拓くべく、より先導的かつより学際的に展開されなくてはな

らないでしょう。

我が国の情報処理分野における技術革新と産業の発展はまた、国際的な問題を提起しております。半導体戦争という言葉に象徴されるような貿易摩擦や、マイクロエレクトロニクスと失業問題に象徴されるようなユーロペシミズムの抬頭などがそれであります。我々は、公正な競争が技術革新の原動力であること、マイクロエレクトロニクスの普及はソフトウェア生産の面で膨大な雇用機会を創出するものであることなどを積極的に訴える必要があると同時に、情報科学・技術における我々の創造的能力を通じて、世界の文明に積極的に貢献すべく渾身の努力を傾注すべきでありましょう。日本人は優秀であるにもかかわらず、世界の文化・文明にとって、未だかつて主要な寄与をはたしたことがないとしばしば指摘されますが、この汚名は返上されなければなりません。

国際的な知識の交流もきわめて重要な課題です。本学会は、IFIP Congress 80をはじめ、2回の日米コンピュータ会議など多くの国際会議を日本において開催し、この面で積極的な努力を重ねてきました。来年は、本学会の共催によりソフトウェア工学国際会議の開催が予定されておりますが、会員各位の御協力をいただき、これを是非成功させたいと念願しております。マイクロエレクトロニクスの急速な進歩により、ハードウェアのコストは急激に低減しているのに対し、利用面の多様化、高度化にともないソフトウェアのコストは急速に増大しております。ソフトウェア生産の画期的な効率化が達成されないかぎり、情報処理産業は労働集約型産業になり下ってしまうでしょう。この国際会議が我が国のソフトウェア工学の飛躍的発展の契機となることが強く望まれるのであります。

本学会の特色の一つは、その学際性であります。従ってその活動領域はきわめて広く、以上述べた事柄はごく一部にすぎません。多様な分野において本学会の活動が、調和ある発展を続けることができますよう、会員の皆様の御協力を重ねてお願いする次第であります。

(昭和56年5月6日)

† 本学会会長 東京大学工学部